

皇太子さま 映画「劔岳 点の記」をご鑑賞



去る6月17日(水)に、東京・有楽町のマリオンにある「有楽町朝日ホール」で、映画「劔岳 点の記」のチャリティー試写会が催され、皇太子さまや国会議員など各界の著名人400人余りが出席された。

東映さんのご配慮で測量・地図界にも招待状が届き、国土地理院の幹部や、日本測量協会、日本地図センターからも参席した。会場で募られた寄付金は、現地でのロケに関連して「立山・劔岳方面遭難対策協議会」へ送られた。

皇太子さまは、日本山岳会の会員で、山を愛する人として知られている。映画館のスクリーンでご鑑賞は普通あまりないということで、立山連峰をスケールいっぱい映し出された評判の圧倒的な映像美を楽しまれた。

上映後には、皇太子さまを囲んで懇親会があり、木村監督・浅野忠信さん・香川照之さん・松田龍平さんなど出演者、石井富山県知事、原作の新田

次郎氏のご子息・藤原正彦先生ご夫妻などが出席された。

浅野さんは、『山小屋での暮らしは、いかがでしたか』と聞かれましたので『非常に楽しかったです』というお答え申し上げましたら、熱心に聞いていただきました」

香川さんは、記者のインタビューに応じて「殿下は山についてとても詳しく、『苦勞されたことはなんですか』とご質問がありました。『劔岳の頂上が非常に神々しいのが印象に残っています』と申し上げましたら、『ああそうですか』と大変興味深そうでした」

木村監督は「皇太子さまの『よくこの小説を映画にしようとお考えになりましたね』というところから始まりました。皇太子さまはオーケストラにも参加しておられるので、映画中のバッハ、ヴィヴァルディなどの楽曲全曲について大変詳しく、『バッハの〈幻想曲とフーガ〉は、パイプオルガンを弦に変えて編曲してもらいました』とご

説明しましたら、『それは素晴らしい』とお言葉がありました。また『葉津よの登場するシーンのヴィヴァルディのバイオリンをチェロにかえてありましたね。大変よかったですね』といったおことばもありましたとの披露があった。

木村監督は「一生のうちでこれだけ緊張して映画を見たのは初めてです。身体に力が入っちゃって熱くなってしまって、眼鏡が曇るんですよ」と感想があった。

また、香川さんは「皇太子さまは大変気さくな方でした。過酷な撮影でしたが、殿下の『素晴らしい』というお言葉で、すべての苦勞が報われました」と語った。そして、「こんなに緊張して落ち着かない監督は見たことがない。そういう意味で今日は本当に貴重な日でした」と取材の記者たちの笑いを誘っていた。

(取材：浦郷武夫 写真：東映提供)